

「学校経営と学校図書館」を終えて

すばらしい司書教諭の卵たち

得松昭行

50年近くの「当分の間」専門的職務を掌る司書教諭がいないままの学校図書館。「教育課程の展開に寄与する」にはあまりにも貧弱な予算、図書館資料の学校図書館。学習・情報センター、読書センターとはほど遠い学校図書館。38年間小中学校に勤務して、人も資料も貧弱で、寒々しい学校図書館に慣れきっていた自分が恥ずかしい。

学校図書館づくりにも、読書指導、読書活動にも不熱心であった者が「学習指導と学校図書館」「学校経営と学校図書館」を担当することになったのだから、さて困った。大変なことになったのだ。が、自信がない、どうしようと悩む代わりに、学校図書館法第4条にいう学校図書館の運営ができる司書教諭が生まれるようにしよう。専門職員、メディア・スペシャリストと呼ぶに相応しい学校図書館のプロを育てよう。今まで惰眠をむさぼった分だけ熱意を持って、学生たちに向かっていくことにした。

175人の学生に90分間も講義を聞かせるという、一斉で、画一的で、一方通行的な講義はしたくないと考えたが、多人数の学生を前にして難しい問題も生じそうだから、次の2点を実行することにした。

①70分間講義をした後、所定の用紙（B5版）を配り、残りの時間で「本時にとくに学んだこと」、「分からなかったこと、質問」を書いて提出する。

これは出欠の確認に使うとともに、学生とのコミュニケーションにも役立った。

「読書感想文を書かされて、読書ざらいになった」とこぼす学生が、少なくとも3割はいることを知っていたから、毎時、学んだことを整理することによって、自分の考えをきちんと書くというリラテシーの基本を身につけさせるという魂胆もあって、少々強引に書かせ、提出させた。

あなたらしさが出ている文を書きなさい、critical thinking をするように心掛けなさい、と呼びかけた。学校図書館を単なる理論や知識として学ぶのではなく、「私ならこうする」(I do)「私はこう考える」(I think) という文を評価していった。

②質問は現実的なことが多く、次時にいくつかを選んで答えるようにし、それらを導入にして講義を進めるようにした。

質問は実に幅広い分野から出てきた。質問の多かった5項目を挙げるとー。教員採用試験や今後の進路に関するもの。不登校、学級崩壊などの指導に関するもの。司書教諭と学校司書に関するもの。児童生徒の接し方、図書館行事に関するもの。利用指導に関するもの。

質問に十分答える時間がなく、質問を通してコミュニケーションを深めることができなかったが、学生の悩み、疑問、要求、課題などはかなり見えてきたように思う。

ただ聞くだけの受け身の学生、中には眠っていたり、携帯電話とにらめっこする学費を払って大損をしているのを忘れていた学生もいたが、全体的には司書教諭の立派な卵が育っている。後期最後の授業の時、自分の考えを文章にする力がついてきたことを褒め、「教員を38年やってきて知っている図書館担当教員や司書教諭の誰より、君たちの方が学校図書館について勉強しているし、熱意と力量

を持っている。自信を持ってよい」と大声で評価した。

後期の試験問題「学習・情報センターとして、読書センターとして、どのような学校図書館を創りたいか。あなたの学校図書館像を書きなさい」に答えたものは、意欲と情熱に満ちたものが多く、こちらの方が学ばせてもらった。それらは、およそ次のように分類できる。

- 1 本と子どもを結びつけるさまざまな工夫や取り組みをする。子どもたちに本を押しつけてはならない。
- 2 図書館を運営する前に教師として、子どものことがよく理解できる力を備えておかなければならない。登校拒否、学級崩壊などの問題をかかえた子どもを暖かく迎え入れ、やすらぎの場となるような学校図書館をつくりたい。
- 3 自分の経験から、学校図書館で先生（担任、学校司書、司書教諭）から声をかけられ、励まされたことにより、本が好きになったので、そういう司書教諭になりたい。
- 4 司書教諭は孤立してはいけない。学校という組織のあり方をしっかり学んで、学校組織の中に学校図書館の重要性をきちんと位置づけていかなければならない。
- 5 学校内はもちろん、PTA、地域の人々、類縁機関との協力・提携の大切さを知った。
- 6 学校図書館がメディアセンターとして機能するようにしなければならない。
- 7 図書を選び、収集し、整理し、保存し、利用していくためには、それ相応の力が必要だ。指導だけでなく、管理する力が求められる。
- 8 視聴覚ライブラリーとしての機能を持った学校図書館にならなければならない。
- 9 子どもの活字離れ、読書離れにいかに対応していくか。家庭との提携が大切である。
- 10 学校図書館を建築物として見直したい。例えば、明るい、健康的、読書、調査、集会などができる広さを持ったものにしたい。（図面付きで説明）

熱心な担任教師や図書館担当教師が、限られた時間の中で読書指導をしたり、本と出会わせたりしている現状では、学校図書館が子どもたちのものになっているとはいえない。

「教育課程の展開に寄与し、児童生徒の健全な教養の育成」するために、日常的に専門的職務を担う人を、今こそ学校図書館に！と願わずにはおれない。

専門的職務を担うことができる意欲と力を備えた人材が、別府大学司書課程の中から育ってきていることをうれしく思っている。

（とくまつ・てるゆき 宇佐市民図書館専門員・別府大学非常勤講師）